

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立山県高等学校 学校番号 16

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「自主積極」の精神のもと、真理と正義を愛し、個人の価値観を尊び、自由と責任を重んじ、心身ともに健康で、国際社会や地域社会に貢献できる心豊かな人材を育成します。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後、地域の将来を担う有望な人材となり得る生徒 自分自身のもつ無限の可能性を信じ、何事にもあきらめることなく、挑戦する生徒 人の痛みを我が痛みととらえることができる心優しい生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域に愛され、地域になくってはならない学校」をモットーに、山県市・岐阜市・関市・美濃市等の企業・施設・商工会 市役所等と協力した「地域連携型キャリア教育」の充実 「分かるまで教え、できるまで導く」を合言葉に、少人数授業やチームティーチング、義務教育段階の「学び直し」を通して、基礎学力の定着に向けたきめ細やかな指導 普通類型・商業類型・福祉類型・工業類型を設け、生徒一人一人が自分の興味・関心のある教科 科目を学習することを可能にする単位制の特徴を生かしたカリキュラム編成 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動や企業実習・インターンシップなどの校外学習に興味をもち、地域や社会に貢献したいと願う生徒 進路実現に向けて、他者と協働しながら、コツコツと努力するのが好きな生徒 普通教科以外の学習にも興味がある生徒や、自分の将来の夢を高校生活の中で見つけたいと考えている生徒

3 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 評価に関して、「学習の評価方法はテストだけでなくいろいろな面から行っている」81% (生徒のみ) は、パフォーマンステストや提出物等の評価方法を生徒に示して行っているため評価が高い。 「学校は『分かる授業』を展開し、確かな学力が身につくよう努力している」は、生徒77%、保護者63%で、概ね満足度には達しているが、更に研修に努める必要がある。 「一人一人の能力に応じた指導を行っている」では、生徒72%、保護者59%と満足度がやや低いため、能力に応じた指導や個別指導の仕方に工夫が必要である。 「ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などがあり、それが学習の理解につながっている」では67% (生徒のみ) が「あてはまる」と回答しているが、満足度がやや低いため、今後も各教科で授業研修を行い、興味・関心を喚起する工夫や改善をしていく必要がある。 11月の学習実態調査では「この3ヶ月、家庭で、1日あたりどれくらい勉強しましたか」に過去2年とほぼ同じ49%が0分と回答しているが、「現在の授業は理解できますか」には69%が「理解している」と回答し、過去4年間で最高である。
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇「わかるまで教え、できるまで導く」のモットーを踏まえた基礎学力の定着と学力の伸長

	◇授業研究を積極的に行い、生徒の興味・関心を喚起するための授業工夫、改善	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部、進路指導部、生徒指導部、年次会、各教科の連携・協力体制	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 類型別学校設定科目等での少人数・TT・習熟度別授業の強化 (2) タブレットやWEB会議システム等のICTを活用した授業改革 (3) 各種検定(漢字検定、全商協会主催検定等)の受験促進	(1) 生徒による授業評価 (2) ICTを授業に活用した教員の割合 (3) 各種検定の合格率	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の学習目標の提示により、学ぶ内容を明確にし、授業に対する意欲や関心を高めた。 ・少人数指導(T.T、習熟度別、選択授業)を実施し、効果的な学習指導に努めた。 ・各教科において、基礎学力の定着に向けた教材開発や授業改善に取り組んだ。 ・ICT教材の研究と研修を行うと共に、年2回の公開授業月間で、ICTの効果的な使用について互いに学ぶことができた。 	① 学習目標の提示、内容の明確化 ② 学習に対する意欲・関心・態度 ③ 教材開発、授業改善の取組 ④ ICTを活用した授業について	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
12 成果・課題	○授業の始めに本時の学習目標を示し、生徒が学習内容を前もって理解し、見通しをもって取り組める指導が定着した。 ○ICTを活用した授業をほぼ全員の教員が行った。効果的な使用について、公開授業月間等で互いに学び、研究することができた。 ○各種検定学習への意欲が高まり、上級にチャレンジする生徒が増えた。 ▲対人関係等で精神的に不安定になり、授業の遅刻や中抜けが重なる生徒が増えた。 ▲約40%の保護者が、本校の学習指導について「わからない」と回答している。 ▲今年度は感染症予防のためのオンライン授業は無かったが、警報発表時や学級閉鎖でのオンライン授業も検討していかななくてはならない。	
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着に向け、各教科において、ICTや独自教材の開発、授業改善に継続して取り組む。 ・評価の仕方を工夫し、授業を大切にする態度を育成する。 ・主体的学習態度の育成のため、学習意欲が高まる工夫と指導を行うとともに、家庭学習の習慣化を図る教材を開発する。 ・多様化した生徒に対応するため、一人一人の能力に応じた指導や個別指導に力を入れる。 ・HPや年次通信、授業参観等で保護者に授業の様子を伝え、理解を深める。 ・感染症や災害発生等の非常時におけるオンライン授業の態勢をもう一度整え、万が一に備える。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月13日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施した保護者に対するオープンスクール（公開授業）などを積極的に開催していただくことで、学校の雰囲気にもプラスになるような活動を提案していくことができると考えている。 ・学習に関しても必要性を感じなければ目標を設定することはできない。必要性を感じるような活動の場を企画していくことで自主的に学習に向かい、目標設定ができるのではないかと。
--

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「自主積極」の精神のもと、真理と正義を愛し、個人の価値観を尊び、自由と責任を重んじ、心身ともに健康で、国際社会や地域社会に貢献できる心豊かな人材を育成します。		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後、地域の将来を担う有望な人材となり得る生徒 ・自分自身のもつ無限の可能性を信じ、何事にもあきらめることなく、挑戦する生徒 ・人の痛みを我が痛みととらえることができる心優しい生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域に愛され、地域になくなくてはならない学校」をモットーに、山県市・岐阜市・関市・美濃市等の企業・施設・商工会 ・市役所等と協力した「地域連携型キャリア教育」の充実 ・「分かるまで教え、できるまで導く」を合言葉に、少人数授業やチームティーチング、義務教育段階の「学び直し」を通して、基礎学力の定着に向けたきめ細やかな指導 ・普通類型・商業類型・福祉類型・工業類型を設け、生徒一人一人が自分の興味・関心のある教科 ・科目を学習することを可能にする単位制の特徴を生かしたカリキュラム編成 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動や企業実習・インターンシップなどの校外学習に興味をもち、地域や社会に貢献したいと願う生徒 ・進路実現に向けて、他者と協働しながら、コツコツと努力するのが好きな生徒 ・普通教科以外の学習にも興味がある生徒や、自分の将来の夢を高校生活の中で見つけたいと考えている生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒指導（教育相談）																										
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーや社会的規範について保護者（55%）・生徒（74%）とともに半数以上が指導していると感じている。 ・学校のいじめに対する指導については、保護者（47%）・生徒（66%）と両者の捉え方に若干のずれがある。 																										
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇「カウンセリングマインド」を基軸とした関係作りを全職員で実践する。																										
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年から管理職まで一貫した情報共有・協力体制 ・学年や管理職の業務をサポートする分掌 																										
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標																										
<ul style="list-style-type: none"> (1) 粘り強い生徒との対話 (2) 得た情報の迅速な教員間の共有化と生徒・保護者への対応 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒が教師を信頼して話せる。 (2) いじめ等のトラブルの発生時に、担任だけでなく、学年主任、分掌長、管理職が一丸となって取り組める。 																										
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価																									
<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる場で生徒の訴えや話を聴く体制をとり生徒理解に努める。 ・学年会や職員会議等、様々な場を通して教員間で綿密に情報共有し、迅速に対応する。 ・外部機関とも連携して生徒の抱える課題に向き 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒が教員を信頼して日々接することができているか。 ②情報を得てから職員間で情報共有し、生徒・保護者への対応まで滞りなく遂行できているか。 ③生徒自身が自らを振り返って 	<table border="0"> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	A	B	C	D	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	A	B	C	D	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	A	B	C	D
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																								
A	B	C	D																								
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																								
A	B	C	D																								
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																								
A	B	C	D																								

合う。	自らの判断で行動を改善できているか。	
12 成 果 ・ 課 題	<p>○今年度、個々の教員が生徒と対話する姿が日に日に増えていった。その結果、5～6月にかけて不穏な空気に包まれていた学校の雰囲気が変わり、10月頃から、生徒間のトラブルも減り始め、落ち着いた雰囲気へと変わってきた。生徒の先生を見る顔つきが変わってきた。</p> <p>○生徒と教員間の関係がよくなったことで、以前であれば強く反発してしまうような服装や頭髪について注意・改善するよう指導をしても、関係が損なわれるような状況にならなくなった。</p> <p>▲事案対応で、対応が後手に回ってしまい、問題が長期化してしまったことがあった。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>年度初めは人間関係を構築することができず、落ち着かない場面も見受けられたが、個々の教員の粘り強い生徒との関係作りの結果、10月頃から少しずつ学校の雰囲気が落ち着き始めた。</p> <p>今年度を振り返ると、生徒の根底にある課題はこれまでと変わらないが、その質も量も変化してきている。あらためて、小中学校との連携が大切であると感じている。</p> <p>よって、本校のこれまでの取り組みを見直し、あらたな教育の模索をはじめた。その一環として、12月に先駆的な取り組みを実践している他県の高校の視察を行なった。その結果大いに学ぶところがあり、本校でもこれを参考に検討を始めることとなった。</p> <p>あらためて本校のアイデンティティ（本校教育の「土台」と「柱」）を確立・確認する「山県高校のあり方研究会」を立ち上げ、その方針を基に、外部委員や保護者、場合によっては生徒も加えた各種委員会の立ち上げや施策を検討・推進していく方針である。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月13日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒に対して粘り強く関係作りを継続された結果が、現在の落ち着きに繋がっていることが分かった。将来社会人として働く人材を輩出するためにも、引き続き粘り強くご指導いただきたい。 ・先生方の力だけでなく、外部の方の力も借りながら生徒を見守るという新たな取り組みで、社会人として通用する人材が育つと良い。
--

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「自主積極」の精神のもと、真理と正義を愛し、個人の価値観を尊び、自由と責任を重んじ、心身ともに健康で、国際社会や地域社会に貢献できる心豊かな人材を育成します。		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業後、地域の将来を担う有望な人材となり得る生徒 自分自身のもつ無限の可能性を信じ、何事にもあきらめることなく、挑戦する生徒 人の痛みを我が痛みととらえることができる心優しい生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域に愛され、地域になくはない学校」をモットーに、山県市・岐阜市・関市・美濃市等の企業・施設・商工会・市役所等と協力した「地域連携型キャリア教育」の充実 「分かるまで教え、できるまで導く」を合言葉に、少人数授業やティームティーチング、義務教育段階の「学び直し」を通して、基礎学力の定着に向けたきめ細やかな指導 普通類型・商業類型・福祉類型・工業類型を設け、生徒一人一人が自分の興味・関心のある教科・科目を学習することを可能にする単位制の特徴を生かしたカリキュラム編成 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動や企業実習・インターシップなどの校外学習に興味をもち、地域や社会に貢献したいと願う生徒 進路実現に向けて、他者と協働しながら、コツコツと努力するのが好きな生徒 普通教科以外の学習にも興味がある生徒や、自分の将来の夢を高校生活の中で見つけたいと考えている生徒

3 評価する領域・分野	◇進路指導		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・本校の進路指導については、保護者及び生徒から概ね肯定的な評価を得ている。特に進路情報の提供については評価が約65%である。進路希望に沿った適切なアドバイスをするということについても評価が59%である。しかし、「わからない(評価E)」との回答が進路情報の提供については約26%、適切なアドバイスは約36%と昨年度より微増である。今後も地域創生キャリアプランナー制度を活用して、企業の求める人材に対する個に応じた進路指導を進めていきたい。1,2年次生の保護者及び生徒に対する情報の提供と説明について、進路の手引を活用し、さらに充実させていきたい。</p>		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇進路ガイダンスや進路体験学習の充実を図りキャリア発達を促す。 ◇生徒の個性に応じた進路選択ができるよう積極的な進路相談を推進する。 ◇全職員の共通理解と協力体制のもとで進路指導の充実を図る。</p>		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>・早期から学年や他の分掌との連携・協力のもと、全校体制で生徒の進路実現へ向かう。</p>		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<p>(1) 個に応じた進路指導 (2) 進路ガイダンスの充実 (3) 進路体験学習の充実 (4) 就職・進学面接指導の充実</p>	<p>(1) 生徒の進路実現 90%以上 (2) 進路講話、ガイダンスの取組状況 生徒アンケート (3) 地元企業・施設研修の取組状況 生徒アンケート (4) 特別面接指導での取組状況 外部の意見</p>		

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
(1) 個に応じた進路指導 年間を通しての補習、小論文指導、進路相談会 (2) 進路ガイダンスの充実 ① 3年進路、就職ガイダンス 7, 8月 ② 自己アピールセミナー (3年) 8月 ③ 職業理解のためのガイダンス (1・2年) 10月 ④ マネープラン講習会 (1・2年) 12月 ⑤ 3年生進路決定体験談 (1・2年) 1月 ⑥ 関市・山県市合同企業説明会 (1・2年) 1月 ⑦ 自己アピールセミナー (1・2年) 2月 (3) 進路体験学習 ① 地元企業・施設研修 (インターシップ) 6月 ② 関市企業見学会 (1・2年) 12月	① 生徒の進路実現 ② 補習、小論文指導の実施 ③ 面接指導の実施 ④ 進路ガイダンス、講話の実施	A B C D A B C D A B C D A B C D
12 成果・課題 ○ 企業求人票のデジタル公開が生徒・保護者に関覧の機会を増やせた。 ○ 就職希望者に対する面接指導では、学校全職員、外部講師、学校関係者 (PTA役員、学校運営協議会委員、同窓会役員) の協力を得て、充実した実施ができた。 ○ 1, 2年次生の進路ガイダンス (上記③～⑦) の実施により、進路意識の高まりを後押しした。 ▲ 保護者懇談時の進路相談会や補習など、生徒の参加が消極的であった。 ○ 就職・進学受験報告書が提出され、次年度以降の参考資料として活用できる。 ▲ 早期から進路活動ができるように進路意識の向上をはかる。		総合評価 A B C D
13 来年度に向けての改善方策案 ① 進路の手引を発行し活用を推進する。 就職・進学関係の一年間の流れを共有し、見通しをもたせて生徒への指導ができるようにする。 ② 進路行事 (進路相談会やガイダンス等) をさらに充実させる。2学年開催を継続して実施する。 ③ 地元企業・施設研修がより実りある研修となるよう、2年次生と3年次生の2学年で実施する。 ④ 各学年団と連絡を密にし、生徒の希望動向の把握に努め、地域連携型キャリア教育の充実を図る。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月13日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「企業実習」の報告会を聞かせてもらったが、生徒にとってすごくよい経験になっているということが伝わってきた。 ・PTA役員として面接指導にも携わり、面接練習の様子から生徒が成長していることがよくわかった。 ・類型の強みを生かした進学、就職の指導を頑張ってほしい。 ・進路の行事が多すぎて、職員の負担が大きくないか。実情に合わせて精選も必要。 ・他の類型の取り組みを、類型を超えて生徒同士で共有できる場があるとよい。 ・類型の選択は進路にも大きく関わると思う。保護者への説明は十分なされているか。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「自主積極」の精神のもと、真理と正義を愛し、個人の価値観を尊び、自由と責任を重んじ、心身ともに健康で、国際社会や地域社会に貢献できる心豊かな人材を育成します。		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後、地域の将来を担う有望な人材となり得る生徒 ・自分自身のもつ無限の可能性を信じ、何事にもあきらめることなく、挑戦する生徒 ・人の痛みを我が痛みととらえることができる心優しい生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域に愛され、地域になくはない学校」をモットーに、山口市・岐阜市・関市・美濃市等の企業・施設・商工会・市役所等と協力した「地域連携型キャリア教育」の充実 ・「分かるまで教え、できるまで導く」を合言葉に、少人数授業やティームティーチング、義務教育段階の「学び直し」を通して、基礎学力の定着に向けたきめ細やかな指導 ・普通類型・商業類型・福祉類型・工業類型を設け、生徒一人一人が自分の興味・関心のある教科・科目を学習することを可能にする単位制の特徴を生かしたカリキュラム編成 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動や企業実習・インターンシップなどの校外学習に興味をもち、地域や社会に貢献したいと願う生徒 ・進路実現に向けて、他者と協働しながら、コツコツと努力するのが好きな生徒 ・普通教科以外の学習にも興味がある生徒や、自分の将来の夢を高校生活の中で見つけたいと考えている生徒

3 評価する領域・分野	◇家庭・地域との連携		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・家庭との連携に関して、「こどもはよるこんで学校に行っている」(75%⇒76%)、「保護者(地域)の悩みや相談に適切に対応してくれる」(66%⇒69%)、「保護者(地域)の悩みや相談に適切に対応してくれる」(66%⇒69.0%)、は評価を継続。家庭・地域保護者への伝達に関しては、「一斉配信メールサービスは有効に活用されている」(91%⇒83%)「ホームページ等で様々な情報を伝えている」(87%⇒77%)、「学校の教育方針や指導の内容を保護者(地域)へわかりやすく伝えている」(78%⇒55%)、「学校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けられている」(75%⇒65%)と評価を下げている。また、地域との連携に関しては、「地域との連携を大切にし、地域に開かれた学校づくりに積極的に取り組んでいる」(63%⇒63%)と現状維持であった。わからない”という回答も多く、学校の取り組みを家庭や地域にうまく伝え、学校の取組について理解していただけるような努力が要である。</p>		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇家庭や地域との連携の強化 ◇地域行事への積極的参加 ◇地域への積極的情報発信</p>		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	各分掌、各学年と連携を取り、ホームページや新聞等のメディアを通じて、充実した情報発信を続けていきたい。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<p>(1) 学校行事への保護者の参加 (2) 各種広報物配信、HPの充実、メール配信 (3) 地元企業、地域行事、学校間交流などによ</p>	<p>(1) アンケート、PTAの出席率、外部からの声 (2) 各種広報物の発行回数、新聞取材回数、HPの更新回数 外部からの声</p>		

る積極的な交流		(3) 校内外での活動回数 外部からの声	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
(1) PTAによる挨拶運動・校内巡視、PATバザー、交通安全指導、公開授業 (2) 広報の充実(山高だより、学年通信、中学校に訪問、広報ボード、新聞記事の校内掲示)、メール配信、HPの更新 (3) 各類型、学年、生徒会等による外部機関との連携	①保護者、PTA役員による学校行事への参加、協力 ②学校評価の向上、新聞等のメディアへの記事数、HPの更新の継続 ③積極的な連携活動を行い、アンケートや意見を頂く。	(A) B C D A (B) C D A (B) C D	
12 成果 ・課題	○PTA役員の方による校内巡視をしていただき学校の様子を見ていただくことができた。また、4年ぶりの通常開催となった山高祭にて「PTAランチ」としてPTAの方が開催し好評であった。 ○各類型において地域活動への積極的な参加や外部団体との連携事業を推進することができた。その結果、生徒が活躍する場面が増え、生徒自身も成長とすることができた。 ▲本校の活動が保護者・地域・企業・中学生等に的確に情報発信されていないこともあるため、より正確な情報を素早く継続的に発信していく必要がある。	総合評価 A (B) C D	
13 来年度に向けての改善方策案	(1) 本校に期待を持ってもらえるような学校運営の柱を明確にすることで、地域との連携や開かれた学校づくりについて保護者や地域に認知していただき、本校の魅力を地域や中学生に解りやすく発信する。 (2) 地域や関係機関には、普通科単位制の4類型の教育活動も含めて、今後も様々な面で支援をお願いし、指導していただくとともに、今まで以上に生徒を積極的に地域活動に参加させ、連携を深めていきたい。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月13日

【意見・要望・評価等】

- ・地元企業にお世話になりながら、様々な形で体験し学んでいく姿が見られた。このような連携を大切にしてほしい。また、実際の現場であるからこそ学ぶことが多くあったようである。1年間の体験の中から、失敗も次への大きなステップになることを学んだことは素晴らしいことである。